

甲子川へ鮎の稚魚を放流

5月21日【甲子川沿い各所】

甲子町では、稚鮎放流が毎年の恒例行事となっています。この事業は甲子川鮎釣り協会を中心として、釣り愛好家や企業からの寄付によって行われています。当日は約300kgの稚鮎を積載したトラックが上流部と下流部の二手に分かれ、参加者は魚体を傷つけないよう丁寧に放流しました。

県外からも多くの釣り人が訪れ、夏の風物詩となっている甲子川の鮎釣りは7月5日(日)に解禁となります。



流れの穏やかな場所を探し、鮎を放流する参加者

(株)日本能率協会マネジメントセンターとの包括連携協定締結式

5月21日【市役所 第一庁舎】



釜石と東京のオフィスをつなぎ、オンラインで行われた締結式

釜石市と(株)日本能率協会マネジメントセンター(JMAM)はワーケーション(※)事業の実施に向けて連携協定を結び、オンラインで締結式を行いました。JMAMの長谷川隆会長は「たくさんの方が釜石に行って学びを深め、何か新しいことが生まれるような取り組みになることを期待している」と話しました。今後、JMAM会員企業の社員らが来釜し、釜石の歴史やまちづくりを学び、釜石の人と交流するプログラムが展開します。

※ワーク(仕事)とバケーション(休暇)を合わせた造語。テレワークにより、普段の仕事を行いながら、地域でしかできないこと(休暇、地域貢献、研修、ローカルビジネスなど)を行うことを指します

魚河岸ジェラート部 発表会

5月29日【魚河岸テラス】

魚河岸テラスを指定管理する(株)かまいしDMCは、5月30日から同施設1階にジェラート店をオープンすることを発表しました。ジェラートは市内の生産者による梅酒や大吟醸、味噌、はちみつ、いくら醤油といった材料を使用した釜石ならではの味が用意されています。また、コーヒー類も用意され、ゆっくりとくつろぐことができます。

同社の河東事業部長は「(魚河岸テラスには)14時から夕食前の時間に立ち寄って食べるところがないという声をいただき、考えた結果ジェラート部を始めることにした。釜石の特産品を知ってもらえる機会になれば」と話し、新たな名物となることに期待を膨らませました。



営業時間は毎週火～日曜日14時～16時です



木の質感が温かい雰囲気のお店。今後も市内生産者と連携して新しい味を開発していきます

根浜あおぞらパーク

5月30日【根浜シーサイド】

市内7団体で構成された根浜あおぞらパーク実行委員会は、根浜シーサイド(鶴住居町21-23-1)の多目的グラウンドを週末に開放する事業を開始しました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響でストレスが溜まっている子どもたちに遊び場を提供することを目的として、5月16日から毎週土・日曜日に開催されています。取材した5月30日は快晴の下、凧揚げ、ボール遊びなどで体を動かす子どもたちが見られました。委員会事務局の伊藤聡さん(三陸ひとつなぎ自然学校)は「コロナ対策も気を付けているが、これからの時期は熱中症も怖い。安全に配慮した遊び場を提供していきたい」と話しました。

※利用は無料ですが予約が必要です ☎090-1065-9976伊藤さん



この日はラグビーのリフティング遊びも行われていました。持ち上げているのは、釜石シーウェイブスの選手とのこと。力持ちです



〇〇会議のプロジェクトから誕生した、ほーでなす釜石が作成した「かまいしすぐろく」の紹介。すぐろくには釜石のさまざまな魅力や小ネタが描かれています(写真左:岩城さん、同右:常陸さん)

釜石〇〇会議活動報告会

4月2日【市長室】

「釜石〇〇会議」は、世代や立場を超えてさまざまな人が集まり、釜石をより楽しく魅力的なまちにするためのアクションを生み出す場として開催されてきました。平成27年の発足から5年間で、延べ2,222人が参加し29件のプロジェクトが誕生。

これまでの活動の成果として、岩城一哉委員長は「子ども世代からお母さん世代の参加者が増えた」、常陸奈緒子幹事は「若い世代も一市民として積極的にアイデアを出せるようになった」ことを挙げました。岩城委員長は、〇〇会議としては一旦一区切りとなるが、これまでの活動で得た経験を今後の釜石のために活かしていきたいと話しました。

佐野よりこさん市長表敬

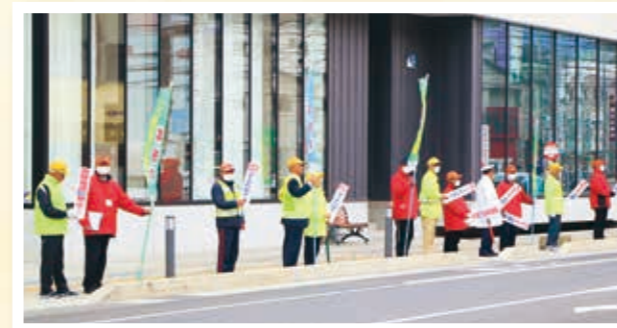
4月3日【市長室】

鶴住居町出身の民謡歌手で、釜石観光物産親善大使を務める佐野よりこさんが、自身初のCDアルバム「佐野よりこ民謡集～天までとどけ～」の制作報告のため市長を表敬訪問しました。

佐野さんは、震災の教訓や先人たちの教えを「ふるさとの民謡」で伝え、語り継いでいく活動をしています。CDには全13曲を収録し、釜石小唄は昭和25年以来70年ぶりの再録となりました。CDは釜石観光総合案内所やかまいし特産品店、釜石情報交流センター、道の駅釜石仙人峠などで販売されています。佐野さんは、収益金の一部を義援金という形でお返ししたいと話しました。



アルバムのタイトル、～天までとどけ～には、震災で犠牲になった方々にも届いてほしいという思いが込められています



出動式終了後には参加者が沿道に立ち、ドライバーに交通安全の徹底をPRしました

【春の全国交通安全運動】 【春の地域安全運動】 出動式

4月5日【釜石市民ホールTETTO】

4月6日から始まる、春の全国交通安全運動と春の地域安全運動に合わせ、両運動の出動式が行われました。出動式には、ボランティア団体や警察関係者など約100人が参加。新型コロナウイルス感染予防のため、参加者はマスク着用で整列の間隔をいつも以上に大きくするなどして式に臨みました。

釜石警察署の仲谷署長は、2月に釜石管内で発生した交通死亡事故を例に挙げ、交通安全に対する意識啓発について訴えました。

特別定額給付金申請書の封入・発送作業

5月1日【釜石市民ホールTETTO】

国は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた家計への支援策として、1人当たり10万円を支給することを決定しました。これを受けて、市は釜石市民ホールTETTOに作業場を設置し、申請書の封入・発送作業を行いました。全部で1万6,222件の発送が5月7日までに完了。また、返信のあった1万5,366件のうち1万4,244件の支給が完了しています(6月5日現在)。市地域福祉課は「支給を受けられない人が出ないように、今後、申請していない人には個別に声掛けや手続きの支援をしていく」としています。



2人一組で作業を行う職員